

図書館友の会 ニュース

2021年
10月号
No. 20

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

図書館友の会「文学歴史散歩」(バスツアー)

「観心寺」と「大阪府立狭山池博物館」へ行きます

今年は、南北朝期に南朝の拠点として激動の歴史をつづった古寺としても知られる「観心寺」と、ため池のルーツを訪ねる「大阪府立狭山池博物館」を見学し、歴史と文学を満喫する企画です。

※ 4面に、観心寺と府立狭山池博物館について紹介しています。



観心寺 金堂

日時：11月19日(金)

午前9時 図書館(本館)出発 → 南海岸和田駅東9:10 出発

会費：5,000円(入場料・昼食代等含む)

定員：30名(申込先着順) 「図書館友の会」以外の方も大歓迎!

申込：図書館本館に直接または電話(072-422-2142)で申し込んでください。

「図書館友の会」各教室の方は、各教室担当者に申し込んでください。

締め切り：11月5日(金)

*当日バスツアーにお越しになる方は、図書館の駐車場への駐車はご遠慮ください。
参加者は、マスク装着, 事前の検温をしてお参加ください。

★行程(中型バス利用)：参加費5,000円は当日でも構いません。

図書館前(本館)9:00発 ⇒ 南海岸和田駅東9:10発 ⇒ 府立狭山池博物館10:00着

学芸員, ボランティアガイドによる説明(予定)を含めて約1時間半見学

⇒ 博物館発11:25 ⇒ 「ガスト河内長野片添店」11:50着, 同店にて昼食(～13:00)

⇒ 観心寺発13:20着 入山後自由見学(約1時間)

⇒ 観心寺14:30発 ⇒ 「道の駅」奥河内くろまろの郷14:50着, 約1.5時間

⇒ 「道の駅」15:30発 ⇒ 岸和田駅東16:15着 ⇒ 図書館(本館)16:25到着

図書館友の会の総会を開催しました

図書館友の会は、8月6日（金）午後2時から図書館（本館）3階の自習室で総会を開きました。松谷会長の挨拶の後、①2020年度の事業報告及び会計報告、②2021年度の事業計画及び予算案の提案が行われ、それぞれ承認されました。

コロナ感染が広がる中、この1年間は「会」の運営にも苦労しましたが、文章・詩・短歌・俳句・再発見の各教室は工夫しながら活動を続け、各種の公開講座も開くことができました。また、昨年11月には文学歴史散歩（高野山、丹生都比売神社）も行うことができました。そして、「このような時期だからこそ図書館の特性を生かそう」と、『図書館から岸和田ルネサンス』を11号まで発行することができました。

今後も、会員及び市民の皆さんの要望に応えられるよう、様々な取り組みを進めていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

記念講演 新型コロナウイルス変異株とワクチン接種の有効性

講師：杉原 富人 氏（図書館友の会副会長）

総会終了後、杉原副会長に『新型コロナウイルス変異株とワクチン接種の有効性』と題して記念講演をしてもらいました。この時期は、デルタ株（インド初出型）による新型コロナ第5波が来襲し「緊急事態宣言」が出されており、ワクチン接種が進み出した頃だったので、参加者一同真剣に聞き入り、時節に合った講演会となりました。

杉原さんは、かなり高度な内容を分かりやすく説明され、非常に好評でした。また、話題提供の最後には、新型コロナ変異株に対する岸和田市での当面の課題（地車曳行に際してのPCR検査の実施）も提起。参加者からの質問や意見も相次ぎ、大変有意義な講演会になったと思います。

※ この講演会の内容は「テレビ岸和田」（12チャンネル）で10月末まで、毎週土・日曜日、午後3時から70分間放映されています。また、図書館でこのDVDとブルーレイの貸し出しが可能ですので、ご利用ください。

9月21日現在、変異株はラムダ株（ペルー初出型）およびミュー株（コロンビア初出型）も日本国内で感染者が報告されています。これら変異株の出現と世界的な蔓延は、新型コロナウイルスの「変異と淘汰」がまさに今、起こっていることを示しています。このウイルスは、もちろん生物ではありませんが、宿主であるヒト細胞への侵入・感染によって、「分子進化」を遂行させているのです。

これに対して、ワクチン接種や治療薬処置で私たち人類は対抗していますが、この新型コロナ感染症を終息させることは不可能でしょう。となると、このウイルスとの共存の中で、今後とも私たちは日常生活を構築していかなければなりません。（9月21日記、杉原富人）

【参加者の感想】

「緊急事態宣言」中での開催となり、主催者の方々はお気を使われたことと思います。生物科学とは無縁の私ですが、なぜ「新型」がつくのがわかりました。

「問題点は？」「ワクチンは？」「中和抗体とは？」「PCR検査は？」「治療薬は？」等々、図表を用いてわかりやすく解説され、理解できることが多々ありました。

コロナ情報を毎日聞く中で、はじめの頃とは違い落ち着いて考えると、ただ感染者数の増減を伝えるだけでは終息が見込めない。コロナ災害ではないかと、私自身迷路に入っている。

講演後に、この時期に開催された訳（祭礼実施と感染との問題）を知り、市民の思いを強く感じました。祇園祭は補助金での行事であるが、岸和田まつりは自治の力。コロナ禍でどのように対応するのか。1か月後への成り行きや、行政がどのように手助けできるのか。岸和田市内だけでなく泉州一帯がこの課題に取り組む必要がある…。いろいろと考えさせられました。

近い時期に、この講演が岸和田テレビで放映される予定ということも聞きました。多くの市民に見ていただければ、「祭りについて自分はどう考えればよいのか」それぞれが考えるきっかけなると思いました。そうした啓発の講演でもあったと思います。

今回は、知らない扉を開けてくださり、ありがとうございました。（Y・N）

地名の秘密

⑱

春木

岸和田春木の地名は町内にある寺「西福寺」に由来する

岸和田春木港は鳥羽一郎の歌う演歌「泉州春木港」の舞台として有名で、春木漁港には、「泉州春木港」の石碑も建てられている。しかし春木のルーツは漁港とは何の関係もない。春木という名前のいわれは、新しく開墾された土地という意味の「原(はら)」や「張(はる)」からきているという説や、町内にある「西福寺」を中興した灯誉(とうよ)上人への感謝の意味をこめて、毎年納めていた薪(まき)を「はるき」といったので春木(はるき)という名前がついたという説などがある。春木地区は大阪湾や春木川の恩恵を受け、古くから人々が集まり栄えていた土地だったのであろう。

『民俗地名語彙事典』によると春木とは、春に成長した丸太の木を伐採し山から流してくる行為を言い、その薪の集積地は、山と川との枢要地点で、多くはその土地の町はずれにある。春木場から陸は馬車、さらに川は筏流しで運ばれる。

岸和田「春木」の町名は、前述した通り「西福寺」に由来する説が有力である。西福寺は室町以前の創建で、檀家は48ヵ里に及び48ヵ寺の末寺をもつ格式高い寺であったが、一時期荒廃した。天文23年(1554)に灯誉上人が中興。この寺も戦国の争乱で豊臣秀吉によって寺領が没収にあたり、大阪夏の陣では大野治長の軍勢により焼かれる被害を被っている。西福寺が全盛の頃、春木の薪(まき)は、この寺に集積されたので、西福寺の一角が春木という地名で呼ばれるようになった。

春木場の地名は岩手県盛岡市中津川ばたや、岩手県雫石町にもある。

【参考資料】 民俗地名語彙事典(日本地名研究所編) 筑摩書房

大阪地名の由来を歩く(若一光司)ベストセラーズ、

泉州の寺社縁起(岸和田市立郷土資料館)、

春木小学校ホームページ、岸和田市

【文責】 文章教室 浦田榮二

2021年 文学歴史散歩(バスツアー) 行先のご案内

観心寺

文武天皇の大宝元年(701年)、役小角(えんのおづぬ)によって開かれ、初め雲心寺とよばれていました。その後、平安時代の初め大同3年(808年)に弘法大師空海が当寺を訪ねられた時、境内に北斗七星を勧請され、弘仁6年(815年)衆生の除厄のために本尊如意輪観音菩薩を刻まれて寺号を観心寺と改称されました。また、観心寺金堂の右に重文・建掛塔があります。塔と名がついていますが、初層しかない低い建物で計画では三重の塔になるはずが、楠正成(くすのきまさしげ)が湊川の戦いで敗れたので、造営が途中で終わりました。正成の短い栄華が伺えます。



観心寺 建掛塔

大阪府立狭山池博物館

1,400年の歴史を刻む日本最古のダム式ため池である狭山池と一体化した親水空間を有する土地開発史専門の博物館です。

土木遺産の保存と公開を目的として、安藤忠雄の建物設計により、2001年3月28日に開館しました。

今回は、開館20周年記念・令和3年度特別展「狭山池のルーツー古代東アジアのため池と土木技術ー」期間中であり、日・中・韓

における古代のため池やため池を造る際に用いられた技術に関する近年の研究成果や過去の資料の再調査成果等を紹介し、狭山池のルーツについて考え、狭山池発見資料の歴史的価値を再認識する展示が楽しめます。当日は、学芸員およびボランティアガイドによる説明を予定しています。



歴史カフェ まちライブラリー

南北朝期の久米田寺

10月17日(日)10:00~12:00

八木市民センター2階 講座室1

南北朝時代、久米田寺は南朝・北朝の両朝に対して中立的立場を堅持しました。このユニークな立場を物証(久米田寺文書等)を基に、図書館友の会の杉原富人さんが話題提供し、皆さんと議論します。

興味のある方はご参加ください。